

藤井寺駅周辺まちづくり提案書 Part 1

2012年10月

藤井寺駅周辺まちづくり協議会

1. はじめに

藤井寺駅周辺は、藤井寺市都市計画マスタープランにおいて「南河内の商業核にふさわしいにぎわいと住み心地のよいまち」として位置づけられており、商業・業務機能など拠点機能の強化、商業機能等の充実を図り魅力を再生し、歩いて暮らせるまちづくりを推進することとしています。

しかし、社会情勢の変化にともない商業機能の衰退が懸念される中で、藤井寺駅周辺は地区最大の集客施設であるイオンモールの建て替えが検討され、今まさにまちづくりの転機期を迎えようとしています。

そこで、平成22年1月より商店街代表の有志による懇談会を開催し、地区の課題、将来について話し合いを行いました。その後、藤井寺駅周辺の住民、事業者アンケート調査を実施し、「藤井寺駅周辺地区まちづくり勉強会」を平成22年8月から平成23年2月まで開催しました。本勉強会は、住民、事業者が主体となって、市民の視点から地区の将来像を検討し、市民共通の将来目標をもつことを目的に開催されました。勉強会では、地区の状況を再確認するための“まち歩き”をはじめ、活性化に取り組んでいる先進事例の視察、まちづくりに対する互いの意見や思いを共有するための議論を行ってきました。この中で、様々な意見があるものの『藤井寺が好き。藤井寺を誇れるまちにしたい。』という思いは、参加者全員に共通していることがわかりました。

勉強会を重ねた結果、皆が互いに協力してまちづくりを実行するための母体となる組織が必要という結論に至り、平成23年6月に『藤井寺駅周辺まちづくり協議会』を設立しました。協議会では「活性化イベント部会」と「街並み整備部会」の二つの部会を設けて具体的なまちづくり活動を展開しています。

勉強会からバトンを受け取り、協議会で取り組んできた成果を「藤井寺駅周辺まちづくり提案書 Part1」としてとりまとめ、市民の皆様に報告するとともに、藤井寺市長に提案いたします。

「歴史文化薫る暮らし・ふれあい・賑わいのあるまち」の実現に向けて、まちづくり提案を重ねていくとともに、行政と協働してまちづくりに取り組んでいきます。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

2012年 10月

藤井寺駅周辺まちづくり協議会 会長 岡田 一樹

2. 私たちが感じているまちの課題

まちに活気がなくなってきています

- 藤井寺駅周辺地区の商業は5つの商店会で構成されていますが、商店会の連携が少なく、一体感、まとまりが感じられない商業空間となっています。
- 商業事業者の高齢化が進行し、空き店舗が増えつつあるなど、商業機能の低下、魅力不足が懸念されています。
- 多種多様な店舗が集積し、専門店が多いことが本地区の強みですが、「駅周辺にゆったりとくつろげるカフェのような店舗が少ない」、「観光客向けの商売が少ない」、「街並みにうるおいがない」などの問題を有しており、商業機能の更新、改善、商空間の魅力づけが必要となっています。
- 本地区の最大の集客施設であるイオンモールの建て替えが検討されており、イオンモールだけでなく地区全体の商空間のリニューアルをはかり、商業の活性化を図っていく必要があります。

魅力的な空間、憩い、集える空間が不足しています

- 本地区は鉄道により南北市街地が分断されており、南北間の見通しが悪く、駅周辺の施設更新が遅れていることから、街の玄関口としての魅力が不足しています。
- 西藤井寺線の「イチョウ並木」をはじめ、駅北口の駅前広場、ポケットパークなど、既存の資源が上手く活用されていません。
- かつては花苑都市として開発され、教材園やブクンダ池のボート、藤井寺球場など“遊び”の空間が充実した街でしたが、今はそのような空間は少なくなり、子どもや家族、若者が楽しめる場所が少ないことも課題です。

まちの発展を支える都市基盤の整備が必要です

- 駅南の広場整備が遅れており、バス、タクシー、自転車、歩行者が混在し、歩道も連続していないなど、不便で危険な状況となっています。また、東西二箇所の踏み切り部では、人と自転車で大変混雑しており、自動車との交錯もあり危険です。
- 駅舎自由通路の機能強化など南北通行機能の改善や、買い物に便利な駐輪場の整備など、まちの利便性を向上させる基盤整備が望まれます。
- 本地区が発展していくには、鉄道の立体化による南北市街地の一体化が長期的な課題です。また、急行の停車や地下鉄の延伸など、来訪者が増えるような鉄道機能の充実が望まれます。



3. まちづくりの方針

歴史と文化が薫る 暮らし・ふれあい・にぎわい のあるまち

駅を中心に暮らし（住機能）・ふれあい・にぎわい（商業・交流機能）と歴史文化を感じる多彩な都市空間が共存していることが、藤井寺駅周辺の個性であり魅力です。

世界文化遺産候補 古市古墳群の玄関口

「歴史・文化」を感じるまち

- 世界文化遺産登録をめざす「古市古墳群」の玄関口にふさわしい、藤井寺の顔となるまちづくりをすすめます。
- 市内外から多くの人を訪れる葛井寺、辛国神社を活かした、観光まちづくりに取り組みます。



気持ちいい「暮らし」のあるまち

- 昭和初期に花苑都市として開発されたブランドを大切にし、気持ちいい暮らしができる環境を維持、発展させます。
- イチョウ通りをまちのシンボルとして、市民が誇れる美しい並木となるよう育成に取り組みます。



歩いて楽しい「ふれあい」

のあるまち

- 昔ながらの商店街、路地空間、歴史を感じる旧街道など、人のぬくもりを感じる空間特性を活かして、歩いて楽しい回遊動線をつくります。
- 南北市街地の一体感を感じるイベントの開催、踏切や自由通路の機能強化をはかり、南北市街地の連携を強化します。



ひとびとが集い、憩う「にぎわい」

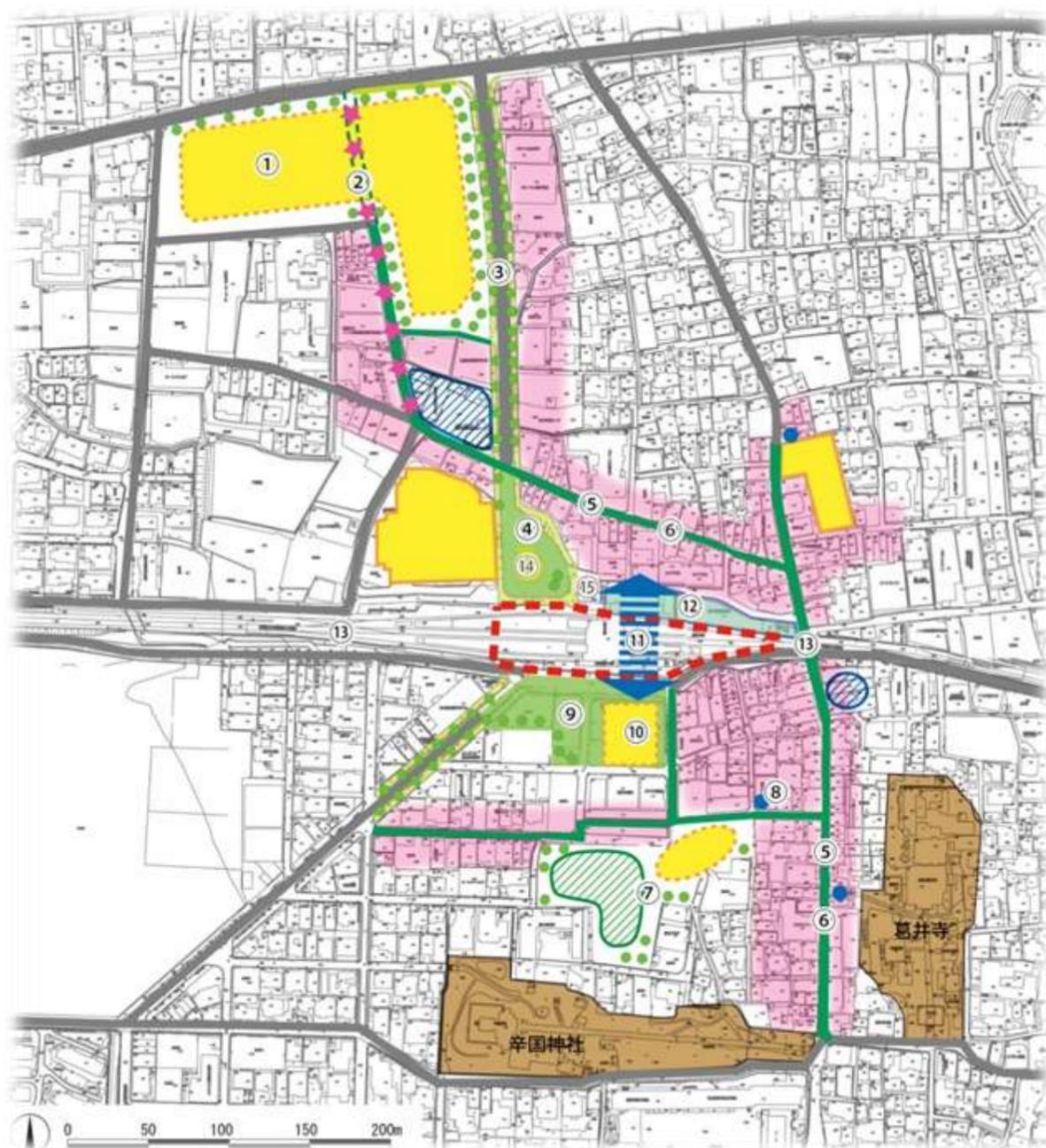
のあるまち

- イオンモールの建て替えを機に、駅北線と駅前広場を中心とした、ひとびとが集い、憩い、にぎわいが生まれる魅力的な都市空間を創っていきます。
- 多様な専門店の集積や界隈性などの“強み”を活かし、ゆったりとしたカフェや観光客向けの商売の不足など“弱み”を補い、商業機能の強化をはかります。



4. まちづくりプロジェクト

協議会の前身であるまちづくり勉強会では、20個のまちづくり事業を提案しました。その中から、市が予定している事業との調整を図り、協議会では3つのプロジェクトを提案、実行しています。



20のまちづくり事業

[ハード整備系]

- ①イオンモールの建替と一体となった都市基盤の再編
- ②買い物回遊南北動線のモール化
- ③駅北線（さざんか通り）の無電柱化と道路空間の再配分
- ④葛井寺等の観光バス駐車場と観光センターの整備
- ⑤買い物客回遊動線の景観づくり（中間領域を活かした街並みづくり）
- ⑥道路空間の美装化（カラー舗装、街路灯の改善、サインの設置等）
- ⑦駅南地区のにぎわい拠点の形成
- ⑧買い物客用の一時駐輪場の整備
- ⑨駅南交通ターミナル機能の改善
- ⑩駅南の顔となる空間づくり
- ⑪駅ナカ商業機能の拡張及び南北連絡通路の充実
- ⑫駅前空間（駐輪場等）の有効活用
- ⑬南北連携軸の改善、強化（長期的には鉄道の連続立体化）
- ⑭駅前広場のリニューアル
- ⑮駅北ポケットパークの活用

[ソフト系]

- ⑯地域資源の再認知と育成（イチョウ並木など）
- ⑰地域資源を活かした景観づくりのルール化
- ⑱大型商業施設と南北商店街が一体となった集客イベントの実施
- ⑲商業機能の強化、新たな魅力づくり（観光や女性、子どもの視点を加えて）
- ⑳駅ナカ商業機能の強化



プロジェクト1

駅北線（さざんか通り）・駅前広場等の再整備の提案プロジェクト

プロジェクト2

地域の魅力再発見プロジェクト
(イチョウ並木の再生・まち歩きマップ発行)

プロジェクト3

活性化イベントプロジェクト
(ハロウィンイベントの開催)

プロジェクト1 駅北線（さざんか通り）・駅前広場等の再整備の提案

市が予定している駅北線（さざんか通り）の電線類地中化事業にあわせて、駅前広場、ポケットパーク、道路空間のあり方を見直し、再整備することを提案します。

■基本コンセプト

駅北線は、商店街と大型商業施設をつなぐ人の動線の要であり、自動車よりも人と自転車が得意な道です。また、駅の北側には市民が集い、憩い、楽しむ空間が少ないことが協議会の調査でわかりました。

そこで、駅北線と駅前広場を、市民の憩いの場、交流の場として、また藤井寺を訪れる観光客、学生達が駅周辺を回遊する拠点として活用したいと考えています。

私たちは駅北線と駅前広場の空間を、

“ひと中心の、ひとにやさしい、楽しいみちづくり”

をめざすことを提案します。

■整備方針

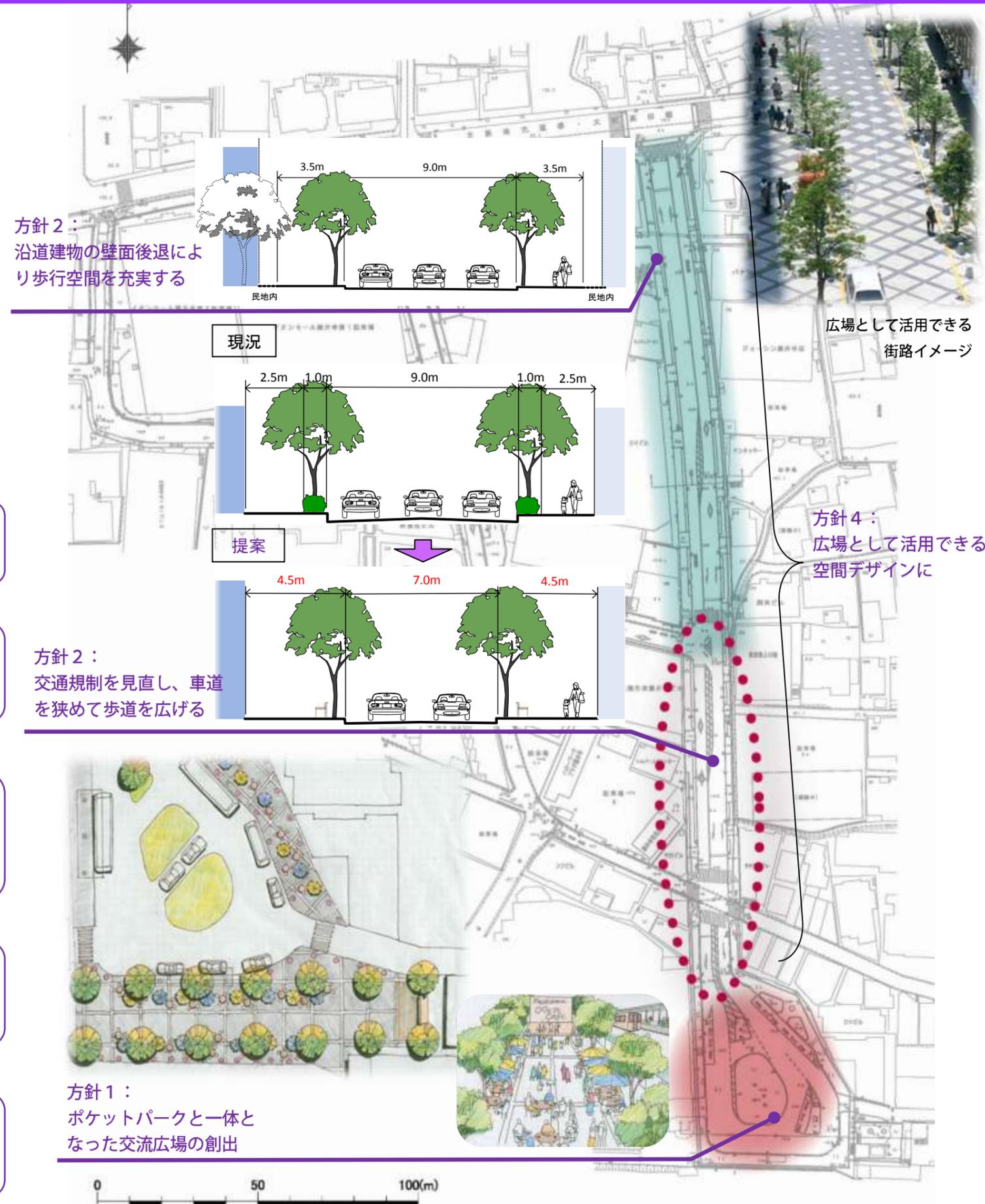
方針1：駅前広場にポケットパークと一体となった、緑あふれる交流広場の創出を
⇒交通機能の配置を見直し、イベントなども開催できるような広場空間を設けます。

方針2：交通規制を見直し、広がりのある歩行者空間の創出を
⇒ハートフル商店街との交差点の交通規制を見直し、車道を狭めて歩道を広げます。
⇒沿道建物の建替え時には壁面を後退させ、歩行者の空間を広げます。

方針3：街路樹や歩道を再整備し、人にやさしいシンボリックな街路景観の創出を。
⇒樹形の美しい高木を連続的に植えてリズム感のある街路景観を創ります。
⇒低木植栽は設けずに見通しのよい、ゆとりを感じる歩行空間を創出します。
⇒歩道と車道の高低差を少なくし、だれもが通行しやすい道にします。

方針4：駅北線と駅前広場が一体となり、広場として活用できるような空間デザインに。
⇒歩道と車道、駅北線と駅前広場が一つの広場として活用できるよう、境界をできるだけ設けない広がりのある空間デザインとします。

方針5：官民協働で美しい駅前空間を維持発展させます。
⇒ゴミのポイ捨てや路上喫煙の禁止など条例等によるルール化と、放置自転車対策も含めた啓発活動を行いモラルの向上をめざします。



方針2：沿道建物の壁面後退により歩行空間を充実する

広場として活用できる街路イメージ

方針4：広場として活用できる空間デザインに

方針2：交通規制を見直し、車道を狭めて歩道を広げる

方針1：ポケットパークと一体となった交流広場の創出

駅前広場から駅北線のイメージ



駅前広場のイメージ



プロジェクト2と3に位置づけたソフト面による取り組みを中心に、まちづくり協議会が中心となって2011年度から実践しています。

活動を継続していくためには、市民のみなさんの理解と協力と、行政等による支援が必要です。みなさんのご協力をよろしくお願いします。

イチョウ並木の再生に取り組んでいます

イチョウ通りは、花苑都市として開発されたまちの歴史を今に伝える、シンボルとも言うべき大切な街路です。

しかし、落ち葉の問題などにより、剪定しすぎてしまった現在のイチョウ並木は美しいとはいえません。

そこで、イチョウ通りを市民の誇りとなるような空間にするために、剪定方法を見直し、落ち葉などの清掃活動、季節の花植えなど、イチョウ並木の再生に取り組み始めました。

- 剪定方法のチェック
- 落ち葉などの清掃活動
- 季節の花植え活動
- 弱ったイチョウの植え替えとフラワーコンテナの設置
(黒田緑化基金の助成により2012年11月頃実現予定)



藤井寺駅周辺の魅力を再発見しています

藤井寺駅周辺の魅力を再発見、再確認し、みなさんに知ってもらおうと「藤井寺まち歩きマップ」の発行をはじめました。マップの企画から取材、編集まで、協議会メンバーの手づくりです。

第1号は「こだわりのグルメ編」として、2012年6月に発行しました。マップは近鉄藤井寺駅構内、市役所など駅周辺の公共施設をはじめ、商店街やコンビニなど各店舗にも配置されています。



まちづくりの情報発信をしています

まちづくりには、市民の理解と協力が必要です。藤井寺駅周辺のまちづくりに、一人でも多くのひとが興味を持ち、理解を示し、一緒に活動してくれる仲間を増やしていくために協議会活動について広報し、まちづくりに関する情報発信に取り組んでいます。

- 市民まつりに出展（協議会ブースの設置）
- 近隣大学の学園祭に出展
(協議会ブースの設置、アンケート調査の実施)
- ホームページの作成
<http://www.fujiidera-machikyo.com/>
- まちづくりニュースの発行



駅周辺が盛り上がるイベントを開催します

駅周辺が一体となって盛り上がる新しいお祭を企画しました。

デラ行っとく！HAPPYハロウィン藤井寺です。

「まちづくりは人づくり」というコンセプトのもと、駅周辺すべてを一つの会場として、子どもから大人まで楽しめるハロウィンイベント開催します。

国際的なイベントをすることによって未来を担う子ども達にグローバルな感覚が養われることを目的としています。

ハロウィンのまちとして、人を惹きつける新たな魅力を生み出し、南河内一大きなイベントに育てていきたいと思っています。

今年は**10月27日（土）**開催です。



藤井寺駅周辺はこんな街になります！

